

あなたがたは世の光である

マタイによる福音書 5 : 14—16



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年2月5日

顕現後第5主日

上野聖ヨハネ教会にて

「あなたがたは世の光である。」 マタイ 5:14

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。
人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の
父をあがめるようになるためである。」 5:16

長い間わたしは、この言葉に抵抗をおぼえていました。「あなたがたは世の光である。」それがわたしのことだとすれば、とんでもない。わたしは光などではない。自分が世の光であろうはずがないし、またそれでも世の光とイエスが言われるのであれば、自分は無理にでも世の光であろうとしなければならない。立派な行いをして、人々が神さまをあがめるようにしなければならない。——そのようにできそうにもないことを自分に強制しなければならないのか。逃げ出したいような、気が重くなる言葉でした。

けれどもいつの頃からか、「あなたがたは世の光である」というのは、「自分で努力して世の光になりなさい」という教訓の言葉ではなく、イエスの愛がこめられた恵みの言葉ではないだろうかと思えてきました。その大切な理由の一つは、イエスご自身が光、イエスが世の光であることに気づいたことです。

ヨハネ福音書の初めのほうでこう言われています。

「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。」 ヨハネ 1:9

また同じヨハネ福音書の中でイエスはこう言っておられます。

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」ヨハネ 8:12

イエスご自身が世の光です。イエスの光が、世とわたしたちを照らしています。その光を受ける、イエスの愛の光を十分に浴びる——それが先にあるはずだ、とわたしは思うようになったのです。

イエスが「あなたがたは世の光である」と言われたのは、最初の弟子たちに対してでした。ペテロとアンデレに出会って、イエスはこう言われました。

「わたしについて来なさい。あなたがたを人間をとる漁師にしよう」マタイ 4:19

あなたがたは人間を捕まえる者になる。神さまのもとに人々を引き寄せる者になる。わたしがそのようにするから、あなたがたは必ずそうなる。わたしについて来なさい。

それと同じように、イエスは弟子たちに言われました。

「あなたがたは世の光である。」

わたしがあなたがたを世の光にするから、あなたがたは必ずそうなる。わたしについて来なさい。

弟子たちはイエスに従いました。

イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、神の国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされました（マタイ4:23）。

弟子たちは繰り返しイエスの教えを聞き、イエスのなさる業を目撃し、またイエスの祈りに触れました。イエスのうちに燃える信仰の情熱と愛を全身で感じていました。

毎日イエスと一緒に過ごしていれば、イエスの影響を強く受けます。そうして彼ら／彼女らは、弟子として成長していきました。

イエスと一緒にいると、それまでははっきりとはわからなかった神さまのことがわかるのです。イエスが人々の痛み感じておられるのが伝わってきて、弟子たちも人々の痛みを感じるようになります。イエスの深い祈りを聞いていると、それまで義務的形式的であった弟子たちの祈りが、心からのものになってきます。

そのように弟子たちは成長していきます。イエスが弟子たちを育てられました。

イエスに従って歩むことには苦勞が伴います。イエスを愛し慕う人々がたくさんいる一方で、イエスを憎み、迫害する者たちがいます。イエスによって自分たちの權威や支配が脅かされていると感じる者たちです。イエスが迫害されるときは弟子た

ちも迫害され、イエスが悪口を言われるときは弟子たちも悪口を言われます。こうののしられることがありました。

「おまえたちの先生は、悪霊の頭^{かしら}ベルゼブルの力で悪霊を追い出している。お前たちも悪霊に憑かれている」マタイ 12:24
イエスは弟子たちに言われました。

「わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。」マタイ 5:11

最後の食卓を囲んだとき、イエスは弟子たちにこう言われました。

「あなたがたは、わたしが種々の試練に遭ったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれた。」ルカ 22:28

ねぎらいの言葉です。この日までに、イエスは、弟子たちが徐々に光を放つ存在になっているのを感じておられました。困難な日々を経て、イエスの光は弟子たちに宿り、弟子たち一人ひとりが信仰と真実の光を放ちはじたのがわかります。

「あなたがたは世の光である。」

いつの間にかこのことは少しずつ事実になっていたのです。イエスの光を受けて自らも光を放ちはじめた弟子たちを、イエスは心から喜び、励まされました。

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」

遠慮せず、隠さず、あなたがたに与えられた光を堂々と輝かせなさい。それは自分を誇らせるものではなく、神の愛を人に示していくものだから。

もっともイエスは、弟子たちの人間として弱さをよく知っておられました。「誰が一番偉いか」などと言い合っていると、たちまち光は消えてしまいます。光を宿していた弟子たちが、闇の力に捕らえられてしまう危険があるのをイエスは知っておられました。しかしそのことを含めて、イエスは弟子たちを守り、導かれたのです。

イエスは愛の光を放っておられます。

イエスはわたしたちにも言われます。

「あなたがたは世の光である。」

わたしがあなたがたを世の光にするから、あなたがたは光になる、と言われるのです。わたしたちを照らす愛の光であるイエスのもとで、わたしたちは光を宿し、光を放つ者となる。最初の弟子たちを育まれたイエスは、わたしたちをも育み、導いてくださるのです。

そしてわたしたちが小さな光を宿し、光をかすかに放ちだすとき、イエスはそれをととても喜んでくださいます。

イエスに招かれたわたしたち。イエスの言葉を聞き、イエス

に学ぼうとするわたしたち。イエスとともに祈り、神の国のためにささやかであっても労苦を引き受けていこうとするわたしたちであるなら、わたしたちは光を宿す。わたしたちにはわからなくても、イエスがわたしたちの中に光が宿っているのを見出してくださいませ。

「あなたがたは世の光である。」

そうなるようにわたしたちを定め、そうなるようにイエスはわたしたちを祝福し、育んでくださるのですから、謙遜に拒否するのではなく、あの天使のお告げを聞いたマリアのように「お言葉どおりこの身になりますように」と言って受け入れましょう。アーメン、そうなりますように。

十字架から光が差しています。イエスの愛の光がわたしたちに宿り、わたしたちをとおして、イエスが人に慰めと励ましの光を与えていかれます。

祈ります。

主イエスさま、わたしたちは世の光と言われるにとうてい値しない者です。けれどもあなたはわたしたちを育み導いて、光を放つ者にしようとしてくださいます。あなたの愛の光をわたしたちに宿らせてください。わたしたちも、あなたの光を輝かせる者にしてください。アーメン